

編集後記

本学会の編集委員会では、第一線でご活躍されている大学や研究所などの先生方をはじめ、私のような高専(高等専門学校)教員も構成メンバーに加わせて頂き、企画の立案から編集に至るまで、毎号議論を交わし、学会誌を皆様にお届けしています。高専は、15歳から22歳までの学生への工学教育を担う為、各都道府県に国策的に設置され、2012年には50周年を迎えました。この間、高専全体として、時代に合わせた教育のスタイルを常に模索し続けてきましたし、私自身としても、学生の年代やその時代に応じた授業スタイルを考えながら専門分野の講義を行っています。現在、高専全体の取り組みの1つとして、「アクティブラーニング」を掲げ、実践に向けたアクションを始めています。アクティブラーニングとは、教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称です。例えばタブレット型コンピュータを各学生が持ち、先生の投げかけた質問に対して学生が一斉に答えを投じる、すると即座にメインコンピュータで処理された回答群から、正答はもとよりアイ

ディアに富んだ回答を教員が選択し、それらを皆で共有し、考え方やその背後にある知識をうまく教員が織り交ぜて紹介し、授業を組み立てていく、そんな授業スタイルを私は想像しています。タブレットが爆発的に普及している昨今では、多くの場面でペーパーレス化が進んでいることでしょう。本編集委員会でも、1人1タブレットとはいかないまでもペーパーレス化の会議を実践しています。省資源という意味合いもあります。やがては、学会誌もペーパーレス化していくのでしょうか？配信される学会記事論文に対してちょっとしたコメントや質問を簡単に投稿でき、それをメインサーバで集約、共有し、閲覧できるシステムがあれば、著者及び読者がそこからなにか新しい道筋や問題解決のヒントを見出すきっかけとなるかもしれません。このような双方向通信を上手く教育研究に利用していくことは、教育研究に携わる者の使命であり、役割とされているところです。そんな未来を想像しながら、今日も学会誌編集委員会に出席し、ホットで有益な研究成果を発信できるよう企画などについての議論を交わしているところ
(梶村好宏)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	二宮 博正	副会長	斧 高一(推薦委員長：研究所助成)	小森 彰夫(推薦委員長：学会賞)
常務理事	室賀 健夫(総務委員長)			
理 事	安藤 晃(企画委員長)	石原 修(研究部会連絡委員長)	上杉 喜彦(支部・地区研究連絡会委員長)	
	甲斐 俊也(財務委員長)	草間 義紀	佐々木浩一	
	清水 克祐	白神 宏之	白谷 正治(年会運営委員長)	
	豊田 浩孝	永津 雅章(広報委員長)	福山 淳	
	堀池 寛	米田 仁紀(編集委員長)		
監 事	市村 真	中澤 一郎		

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：米田仁紀(電通大) 副委員長：豊田浩孝(名大)

エディタ：安藤 晃(東北大)、坂本瑞樹(筑波大)、中村祐司(京大)、長友英夫(阪大)、小西哲之(京大)、佐々木浩一(北大)

編集委員：石田 學(JAXA)、井 通暁(東大)、岩本晃史(核融合研)、内田儀一郎(阪大)、浦野 創(原子力機構)、大場恭子(東工大)、落合謙太郎(原子力機構)、笠田竜太(京大)、梶村好宏(明石高専)、糟谷直宏(九大)、佐々木 明(原子力機構)、柴田裕実(阪大)、清水一男(静岡大)、城崎知至(広島大)、鈴木達也(長岡技科大)、高橋和生(京都工繊大)、徳沢季彦(核融合研)、成嶋吉朗(核融合研)、長谷川 純(東工大)、長谷川裕記(核融合研)、林 信哉(九大)、菱沼良光(核融合研)、古川 勝(鳥取大)、増井博一(九工大)、松浦寛人(大阪府立大)、籾内俊毅(阪大)、山田英明(産総研)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第90巻第1号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

印刷 株式会社荒川印刷

一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

2014年(平成26年)1月25日

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: http://www.jspf.or.jp/ 定価1,365円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。